

## 【根拠資料2-1】

### 学部の理念・目的

教育学部は、創価教育の父、牧口常三郎先生の遺志を受け継ぎ、教育学科、児童教育学科ともに、建学の精神にある人間主義に基づいた学問研究と教育実践を行うことを目指しています。

創価大学の建学の精神およびグランドデザインが示す「創造的人間」という指標を踏まえ、教育学部は「人間教育とは何か」について探究し、その精神を基盤にして、将来のさまざまな場面における問題を、教育学的・心理学的視点から、高度な知識と技術をもって解決できる人間の育成を目的としています。

### 教育学部の教育目標

教育学部は、以下の4項目を教育目標に掲げています。

- (1) 教育学、心理学に関連する諸学問の学修を通して、それを、教育を考えるための糧としていくことができる人間を育成する。
- (2) さまざまな教育の場において、現在どのような問題が起こっているのか、その問題の解決のために何が求められているかを理解し、それを実際に解決できる問題解決能力を身につけた人間を育成する。
- (3) 教育問題を自明のものと受け止めるのではなく、それらをつねに学問的な検証の対象にしていく態度を身につけた人間を育成する。
- (4) 教育問題を、地域・国・世界というさまざまなレベルで考え、その結果を自分の言葉で語るとともに、社会の様々な領域における活動において活用することができる人間を育成する。

### 教育学部ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

創価大学のディプロマ・ポリシーに基づき、教育学部では、学生が卒業までに以下の基準を十分に達成したかどうかを判断した上で、学士(教育学)を授与します。

#### 知識・理解

1. 教育学と心理学に関する基本的な知識を修得する。
2. 教育学と心理学の研究方法を理解する。
3. 世界(経済、政治、倫理、宗教、自然、芸術、身体、そしてこころ)の諸問題を理解し、そこに教育問題・課題を捉えることができる。

#### 考える力

4. 世界と自己自身の間を結びつけながら、反省的に思考する。
5. 世界の諸問題を教育学的または心理学的な観点から分析的に思考する。
6. 世界の諸問題の解決を教育実践または臨床実践としてデザインする意味で、構想的に思考する。

#### 行為する力

7. 教育学と心理学の研究方法を対象と目的に応じて適切に利用できる。
8. 世界の諸問題に対する教育実践上あるいは臨床実践上の解決を見出し、それに取り組むことが

できる。

9. 教育実践または臨床実践に、同僚性のなかでリーダーシップを発揮しながら取り組むことができる。

#### 態度

10. 自他とのコミュニケーションを通して、絶えることない自己成長を追求する態度を持つ。
11. 価値に対する謙虚さを自覚しなければならないという意味で、教育学的な倫理性を持つ。
12. 他者の主体性を尊重しながら、その成長を支え促そうとする教育学的な責任感を持つ。

## 教育学部カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

教育学部は、創価大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、かつ本学部のディプロマ・ポリシーに適合する学生を育成するために、学科別に以下の方針で教育課程を編成しています。また、専門科目にコースナンバーを配当してシーケンスを明確にするとともに、カリキュラムマップによって各授業科目とディプロマ・ポリシー項目との対応を示しています。各授業における教員による成績評価及び定期的実施する学生調査等により、ディプロマ・ポリシーの達成度を測定・評価します。

### (1) 教育学科

教育学科では、学生の将来の志望に合わせ、教育学、心理学、国際教育に関する科目を設置しています。

- 必修科目の「教育学概論」「心理学概論」により、基本的な知識や研究方法を修得できるようにしています。また3年次からは少人数の「演習」で、より専門的な課題を設定し、学問的・実践的研究を行います。
- 選択必修科目の「学校研究」「教育学研究法」「教育方法学」「教育心理学」「臨床心理学」「教育カウンセリング」「国際開発教育論」「比較・国際教育学」等により、国内外の諸問題を教育的・心理学的観点から分析的に思考し、解決に取り組む力や態度を養います。  
また「教職概論」では、教員としての倫理性や子どもの成長のために尽くす責任感を身につけます。
- 選択科目では、教育学、心理学、国際教育、社会教育関連の科目をより深く学ぶことにより、諸問題解決への実践方法を考え、自らがリーダーシップを持って取り組む力を養います。教職課程を目指す学生のためには、教育実習に先立って学校現場を経験する科目が用意され、子どもたちや教員との交流を通して、自らが教員として絶えず成長しようとする態度を身につけることができます。
- 英語教職課程の専門科目が多く開設されており、その多くは英語によって授業が行われ、高い実践力を持つ有為な英語教員を養成するのに資するカリキュラムとなっています。

### (2) 児童教育学科

児童教育学科では、児童教育の分野における学識豊かな人材の育成、特に小学校・幼稚園・特別支援学校の教員の養成を目指して、カリキュラムを設定しています。

- 必修科目の「初等教育原理」「心理学概論」により、基本的な知識や研究方法を修得できるようにしています。また3年次からは少人数の「演習」で、より専門的な課題を設定し学問的・実践的研究を行います。
- 選択必修科目の「学校研究」「教育行財政学」「教育方法論」「教育心理学」等により、小学校・幼稚園・特別支援学校の教員としての問題発見・解決能力を養い、児童・幼児・障害者の心理を理解

するとともに、学校を取り巻く諸問題を、教育学的・心理学的観点から反省的・分析的に思考し、解決に取り組む力や態度を養います。また「教職概論」では、教員としての倫理性や子どもの成長のために尽くす責任感を身につけます。

- 選択科目では、小学校の各教科、幼稚園の各領域、そして特別支援学校関連科目等についての多様な専門科目を用意して、小学校・幼稚園・特別支援学校の教員としての実践力を身に付けるとともに、諸問題解決への実践方法を考え、自らがリーダーシップを持って取り組む力を養います。教職課程を目指す学生のためには、教育実習に先立って学校現場を経験する科目が用意され、子どもたちや教員との交流を通して、自らが教員として絶えず成長しようとする態度を身につけることができます。

## 教育学部アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

教育学部は、学部理念・目的に示した能力を持つ人間を育成するため、人間主義に基づいた教育の探究と実践を志し、基礎的な知識・技能および的確な読解力・表現力を土台として、柔軟な思考をもって他者と協力できる学生を求め、創価大学のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の基準で選考を行います。

1. 本学部の理念・目的への理解を基礎とした志望動機、人間主義に基づいた教育を探究しようとする修学意欲については、AO入試や公募推薦入試、外国人入試において行う書類審査及び面接を通して評価します。
2. 大学での学修活動において要求される基礎的な知識・技能については、公募推薦入試、センター利用入試、全学統一入試、一般入試、外国人入試で行われる書類審査及び学力試験の結果を通して評価します。

これらの入試での評価にあたっては、英語力を相対的に重視し、AO入試や公募推薦入試の書類選考においては、実用英語能力テストの結果に応じて優遇措置を取ります。

また公募推薦入試での学力試験においては、英語のほか国語や数学も選択可能とし、幅広い能力を評価できるようにします。

3. 教育の理論・実践の探求を目指す上で必要不可欠となる読解力・表現力、柔軟な思考力については、公募推薦入試、センター利用入試、全学統一入試、一般入試で行われる学力試験、さらにAO入試、公募推薦入試、外国人入試で行われる小論文審査を通して評価します。
4. 優れた教育者の資質である他者と協力できる協働性については、AO入試において行うグループ学習を通して評価します。